

人工衛星WorldView-2がとらえた「国立霞ヶ丘陸上競技場と明治神宮野球場周辺」

データ提供：日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

人工衛星WorldView-2データから「国立霞ヶ丘陸上競技場と明治神宮野球場」周辺を切り出し、前掲の画像と同様にトゥルーカラー合成画像を作成してみました。国立霞ヶ丘陸上競技場（呼称：国立競技場、1958年3月竣工）は、第3回アジア競技大会（1958年）と第18回オリンピック東京大会（1964年）招致のため、明治神宮外苑競技場の跡地に建設されました。下図右側の拡大図を見ると、トラック（1周400m、8レーン）や芝地内のライン、照明灯の陰影が鮮明に見えます。国立競技場に隣接する明治神宮野球場（呼称：神宮球場、1926年10月1日竣工）は、2007年11月から始まった大規模な改修工事を経て、翌年（2008年）3月6日、竣工に至っています。人工衛星WorldView-2の軌道高度は770kmですが、観客席の区画や人工芝の線状模様までもはっきりと判読できます。人工衛星WorldView-2に搭載されているマルチスペクトルセンサによる地表面の観測性能に驚かされます。



過去の「国土の姿を見る」画像集は次の URL でご覧いただけます。 http://www.jacic.or.jp/books/jacicjoho/kokudo/kokudo_index.html